

特別支援教育便り

ほほ笑み便り

NO. 4

令和元年 12 月 25 日
杉並区立八成小学校

はちなり教室の実践紹介

はちなり教室では、相手に意見を伝えたり相手の意見を受け入れたりする練習として、グループワークの授業を行うことがあります。2学期に、はちなり教室で行ったグループワークの中から「ストロータワーチャレンジ」と「いろとり鳥」の2つをご紹介します。

1 ストロータワーチャレンジ

この活動は、ストロー15本、マスキングテープ10cm、はさみ1個が各グループに配布され、これらの道具を使って制限時間内（15分）にできるだけ高いタワーを作るといふものです。ストロータワーを作るにあたり、①自分の考えを相手に分かりやすく伝える、②相手のアイデアを聞いて受け入れる、③目的を達成できるように協力する、という3つのねらいがあります。床に直接マスキングテープでストローを貼り付けないなど細かいルールはありますが、チャレンジを2回行い、1回目よりも2回目が高くなるように話し合い、それぞれのグループがタワーを完成させました。



授業のまとめ（振り返り）の時間には、

「タワーが倒れないように支えて協力することができました。」

「土台のアイデアを伝えることができました。」

という感想が出ました。しかし一番難しいと感じた子供が多かったのは、相手のアイデアを受け入れることでした。

「相手のアイデアを受け入れたいという気持ちがあるけれど、どうしても自分の考えの方が良いと思ってしまい、葛藤がありました。」

そんな葛藤がある中で、150cmのタワーを作ったグループの振り返りを聞いてみると、

「自分の意見と相手の意見を混ぜた新しい意見を、タワーに取り入れました。」

というように、受け入れ方を工夫していました。子供たちだけでなくその場にいた誰もが“意見を混ぜ合わせる”という言葉に感心しました。

2 いろとり^{どり}鳥

ストロータワーチャレンジから約1か月後、「いろとり鳥」というグループ活動で共同作品を作りました。彩りのある羽をどのように付けるのか、目やくちばしを使ってどのような表情にするのか、話し合いました。①自分の考えを相手に分かりやすく伝える、②相手のアイデアを聞いて、受け入れる、③目的を達成できるように協力する、というめあてであることを伝えると、以前の活動を思い出す子供たちがいました。共同作品なので、「自分の思い通りにいかない、でも時間内に皆と仕上げなければ…」という葛藤が生じていました。



いろいろな意見を出し合って、受け入れて、協力して、5羽のいろとり鳥がはちなり教室から誕生しました。お互いの意見を共有してすぐに作りたい鳥ができたグループもあれば、相手の意見を受け入れることが難しいグループもありましたし、なかなか自分の意見を伝えられないというケースもありました。あるグループの話合いでは、

Aさん「ダイナミックに羽を広げた大きな胴体の鳥を作りたい！」

Bさん「私はどちらかという羽をまとめたように小さめの胴体の鳥にしたい！」

というように反対の意見が出ていました。しかし、

Cさん「グループで1羽だから…ダイナミックと小さめの間を取って、中ぐらいの鳥はどうか。」という意見を出して、ストロータワーの学習から学んだ意見の受け入れ方を実践している子もいました。

はちなり教室では、その時々ケースにもよりますが、指導者が話合いに入って意見の交通整理をしたり、自分の意見が受け入れてもらえるように交渉の仕方を指導したりしています。また、意見を伝えることが難しい子供には具体的な伝え方を示して、その場で自分の言葉で伝えられるようにしています。子供たち自身に、“折り合いが付けられた”、“意見が伝えられた”という成功体験が積めるような授業を行っています。

特別支援に関するご質問がございましたら、以下までご連絡ください。

連絡先

特別支援教育コーディネーター 6-1担任 池田 03-3399-3138 (学校代表)

特別支援教育コーディネーター はちなり教室担当 杉村 03-3399-3181 (はちなり教室直通)